

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
 清水港湾事務所
 御前崎事務所/下田事務所/田子の浦事務所
 静岡市清水区日の出町7番2号
 TEL. 054-352-4146(代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～CONTENTS～

- ・おめでとうございます～「港湾関係功労者等表彰式」～
- ・みなとオアシス認定式！
- ・御前崎港にっぽん丸・海王丸入港！
- ・夏のイベントで地域に貢献
- ・下田港防波堤 国内最大の起重機船で工事を実施
- ・シリーズ「クルーズ船プロフィール」②(全5回)
- ・シリーズ「徳川家康と清水港」②(全4回)

おめでとうございます ～「港湾関係功労者等表彰式」～

平成27年7月23日(木)、清水マリニビルにて『平成27年度「海の日」式典』が開催され、港湾振興発展、環境保全などに貢献された22人(団体含む)の功績をたたえ表彰等を行いました。受賞者は以下のとおりです。

港湾関係功労者等表彰

中部地方整備局長表彰

- 永年勤続
株式会社古川組 静岡支店 笈沼 正二 様
- 港湾振興発展
前清水港港湾建設工事安全協議会会長
植松 盛雄 様
- 港湾振興発展
鈴木建設株式会社 伊藤 端雄 様
- 港湾建設功労(優良工事・業務)*
河津建設株式会社
株式会社シオ政策経営研究所
- 港湾建設功労(優良業務技術者)*
株式会社シオ政策経営研究所 藤田 順史 様

※ 中部地方整備局長による港湾建設功労者表彰者は、7月16日(木)に名古屋市内にて表彰されました

清水港湾事務所長表彰

- 海をきれいにするための一般協力者
株式会社東遠浄化槽管理センター
東遠ビーチクリーン
大旺新洋株式会社 名古屋支店
株式会社三井組
株式会社大澤組
- 港湾建設功労(優良工事、下請企業、有能技術者)
河津建設株式会社 檜垣 昭二 様
錦海運建設株式会社静岡営業所 高橋 芳夫 様
株式会社 KAITO 下野 幸雄 様



≪「海の日」清水港実行委員会 西尾委員長挨拶≫



≪植松盛雄様≫

○港湾建設功労(優良工事・業務、下請企業)

- 株式会社橋本組
- 一般財団法人港湾空港総合技術センター
- 株式会社カネシユウ橋本土建
- 株式会社新村組
- 錦海運建設株式会社 静岡営業所
- 株式会社 KAITO
- 株式会社タカノ建業
- 有限会社福永建設

(順不同)

みなとオアシス御前崎誕生！

8月1日(土)、中部地方整備局(局長 茅野牧夫)は、静岡県御前崎市の御前崎港を管内7港目の『みなとオアシス』に認定し、「御前崎みなと夏祭2015」開会式の中で、守屋正平 副局長から御前崎市 石原茂雄 市長と澤入芳男 副市長に認定証と認定旗を授与しました。

守屋副局長の「本日、御前崎みなと夏祭2015 にあわせて『みなとオアシス』の認定をさせていただくことは私たちとしても大変うれしいこと。」との挨拶の後、認定証と認定旗が授与され、石原市長からは「これから『みなとオアシス』の名に恥じないよう、情報発信できる港として、御前崎市民一丸となって取り組みたい。」との決意が述べられました。

当事務所は、みなと夏祭会場で「みなとオアシス」紹介パネルを展示し、普及促進支援を行い、多くの人に「みなとオアシス」をPRしました。

中部地方整備局としては、引き続き、みなとオアシス制度の普及促進に取り組むとともに、「みなとオアシス御前崎」を含む、管内のみなとオアシスが“にぎわい交流・防災の拠点”として更なる活用が図られるよう、取り組みを支援していくこととしております。



《認定式記念撮影》

御前崎港ににっぽん丸・海王丸入港！

浜松青年会議所が主催する「2015はままつ少年の船」のため、御前崎港西埠頭岸壁に客船「にっぽん丸」が寄港、7月28日(火)に出港しました。

同企画は、船上体験を通じて、児童の自立心を育てることを目的として、御前崎港と瀬戸内海を2泊3日で往復して航海するもので、浜松市を中心に小学3～6年生約450名が参加しました。

「にっぽん丸」は、3日間の航海を終え、7月30日(木)同港に帰港し、家族と再会した児童たちは、充実した航海により一回り成長した姿を家族に見せたことでしょう。

御前崎港に、旅客船が寄港したのは、10年ぶり3回目であり、これを機により多くの皆様に御前崎港の素晴らしさを知っていただき、今後も多くの旅客船が寄港することを願っています。

また、本航海に尽力された皆様に対し感謝するとともにさらなる御前崎港の繁栄、躍進を望んでおります。



《にっぽん丸出港の様子》

8月14日(金)から18日(火)まで“海の貴婦人”と呼ばれる「海王丸」が5年ぶりに御前崎港に寄港しました。海王丸は独立行政法人航海訓練所の練習船です。

15日(土)は、実習生による帆を張る訓練「セイルドリル」が披露され、多くの来場者から拍手が沸き起こりました。16日(日)には、海王丸が一般公開され約6,300名の方が乗船し船内見学が行われました。当事務所もこれに合わせて、「みなとオアシス」を紹介するパネル展示や港湾業務艇「ふじ」による港内見学を実施しました。港内見学には、22組44名の親子が参加して下さり、海王丸の前を通過する際には、手を振って、海王丸の乗船者とコミュニケーションをとっている様子がうかがえました。海王丸の寄港期間中の御前崎港への来場者数は4万人規模。地域イベントとして大いに盛り上がりました。



《「海の貴婦人」海王丸》

夏の港のイベントに参加しました！

～田子の浦ポートフェスタ～

7月19日(日)に、田子の浦漁港周辺において「田子の浦ポートフェスタ」が開催されました。当事務所からも「港紹介コーナー」の一角にブースを構え、田子の浦港の整備や、3.11 東日本大震災に関するパネル展示をし、一般市民の方々に港湾整備の必要性などについてPRを行いました。

「田子の浦ポートフェスタ」は、富士市が主催の2回目のイベントで田子の浦港が地域に与える効果を分かりやすく紹介し、港への関心を高めてもらい、地域振興を図る目的で開催されました。ポートフェスタには多くの市民が参加し、主催者の発表では約5,000名の方が来場しました。

当日会場では、陸上自衛隊の特殊車両2台の展示、陸上自衛隊炊き出し部隊によるカレーの無料配布、(株)エスパルスドリームフェリーのオーシャンプリンセス号の一般公開・港内クルーズ、田子の浦漁業協同組合による漁船パレードなども行われました。



《漁船パレードの様子》



《田子の浦ポートフェスタ歓迎式典の様子》

～踊夏祭～

7月19日(日)に、大井川港にて開催されたイベント「第15回踊夏祭(おどらっかさい)」で、当事務所もブースでのパネル展示等を行いました。

踊夏祭は、旧大井川町の時代から毎年開催されている恒例のイベントで、焼津市大井川地区の大井川港特設会場で開催されました。今年は市内外から集まった64チーム約1,000人が踊りを披露しました。

会場では、魚河岸シャツファッションショーや海上自衛隊輸送艇の一般公開、みなとオアシス紹介ブース、第10回大井川港トライアスロン大会なども行われ、夜は三ヶ日手筒花火が開催されました。

このイベントは、毎年多くの来場者で大変賑わっており、当事務所では港の役割や防災関連のパネル展示、港湾業務艇「ふじ」による大井川港の港内見学(乗船者は延べ56名)の支援を行いました。



《踊夏祭開会イベントの様子》



《ブース展示の様子》

～清水港夏休み親子見学会～

8月21日(金)、夏休みの恒例イベントである「親子見学会」を(一社)清水建設業協会と共催で開催しました。見学会には静岡市清水区在住の小中学生親子(15組37名)の方に参加していただきました。

見学会では、建設機械の試乗体験や港湾業務艇「まさき」による港内見学に加え、国際拠点港湾である清水港の役割と施設の整備状況の説明、防波堤がどのような役割を果たしているかを理解していただくために、防波堤の効果を実験により体験していただきました。

港内見学では、清水港全体を回りながらコンテナターミナルや防波堤などの様々な港湾施設をその説明と共に間近で見させていただきました。特に船上から荷役中のガントリークレーンを見たときは子供達から「コンテナが、今トラックに運ばれた!」、「あそこに人が乗って操作している!」などその迫力に興奮と驚きの歓声があがりました。

さらに、清水マリンパークでの建設機械の試乗体験では、重機に乗った子供たちは、最初は緊張気味でしたが試乗が進むにつれ次第に笑顔になり、試乗が終わる頃には皆「すげー楽しい!」と目を輝かせながら興奮した様子でした。

参加者の方からは、「コンテナ船が荷役しているところが見れて良かった。」「重機の操作が難しかったけどすごく楽しかった。」などの感想が寄せられ、本見学会を通じ、港や建設業に対する理解が深まったと実感できる有意義な取り組みとなりました。



「港内見学の様子」



「建設機械試乗体験の様子」

下田港防波堤 国内最大の起重機船で工事を実施

下田港では、荒天時における海難事故の低減を図るため、港内の避泊水域面積を拡大することを目的として、国の直轄事業による防波堤の整備を進めています。

今年度は、今後想定される大規模地震により発生する津波に対しても防波堤の機能を維持できるよう、防波堤本体ケーソンの基礎部分をコンクリートブロックで補強する工事を行っています。

同ブロックは約 1,400 t / 個 (9.7×9.1×7m) と非常に大型であるため、据付作業にあたっては、国内で最大の吊上げ能力(=最大 4,100t まで可能)を有する起重機船「海翔」を使用しました。

8月4日～6日に、コンクリートブロックを1日1個ずつ(計3個)下田市須崎地区の作業基地から起重機船で吊り上げ、そのまま防波堤へと運び、防波堤の基礎部分(水中)へ吊り下ろして据え付けました。



「下田港全景写真」



「ブロック吊り上げ状況」



「ブロックを吊り上げたまま防波堤まで運び、防波堤の基礎部分(水中)へ据付」



「ブロック全景」

シリーズ「クルーズ船プロフィール」②（全5回）

今年清水港で最も入港回数が多い、日本のクルーズ船「飛鳥Ⅱ」についてご紹介します。

郵船クルーズ所有の「飛鳥Ⅱ」は1990年三菱長崎造船所で建造され、全長241メートル、50,142トン、旅客定員872名。現在3隻ある日本船籍のクルーズ船の中で最大です。船名の「飛鳥Ⅱ」が示すように、1991年に就航した初代「飛鳥」（全長192.82メートル、28,856トン）の2代目として、2006年郵船クルーズ子会社のクリスタルクルーズ所有の「クリスタルハーモニー」を購入し日本向けに改装、「飛鳥Ⅱ」としてデビューしました。主な変更点は、最上階にグランド・スパ（大浴場）を新設、お茶会などで利用できる和室「游仙」の新設、全客室にウォシュレットを搭載するなど、日本人ゲストのニーズに合わせた仕様に変更されました。なお、清水港にも入港する「クリスタルシンフォニー」（全長238メートル、51,044トン）は、「飛鳥Ⅱ」の姉妹船になります。

日本船籍のクルーズ船の特徴は「サービスの細かさ」にあると思います。最新の外国船籍のクルーズ船と比較すると、就航から20年ほど経過している為、船内の設備や客室の広さも、物足りなさを感じるかもしれませんが、和室や大浴場などは、日本船ならではのものです。船内での言葉も、外国船籍では「英語」が標準になる事が多いですが、当然「日本語」ですから、その点では初めて乗船しても安心です。食事に関して、日本基準になっていますので、料理の味付けや盛り付け、サービスも洋上という環境を感じさせません。

海外では一般的に1クルーズは1週間から10日間前後に設定されています。最近人気の外国クルーズ船による日本発着のクルーズも短期間の設定は少なく、なかなか長期休暇の取れない日本人にとって妨げになる場合があります。これは、クルーズ中に一度国外に出なくてはいけないという「カボタージュ」（Cabotage）という規制が外国船籍に適用されるため、韓国や中国、台湾、ロシアなどに立ち寄りなければならず、国内のみの短期間クルーズが出来ないのです。「飛鳥Ⅱ」は日本船籍であるので、この制限は適用されないため、1泊2日や2泊3日という短期間のクルーズの設定が出来るというメリットがあります。

白い船体が印象的な国内最大のクルーズ船「飛鳥Ⅱ」のゲストエリアは、デッキ5からデッキ12までの8層。ワールドクルーズも行われる船内には、オープンプールやショーやライブが楽しめるギャラクシーラウンジ、ライブラリーなどのパブリックスペースも充実しています。最上階のデッキ12には先程紹介した「グランド・スパ」があり、クルーズ中の海原を眺めながらの入浴は、大変人気があります。デッキ11にある「ピスタラウンジ」は、船首方向が広大なガラス窓になっていて、雄大な景色を眺めながらのティータイムや、読書などで、ゆったりした時間を過ごすには最適な空間。オープンデッキ部分もあり、出入港時には、こちらが人気スポットの一つです。



◀日本最大のクルーズ船「飛鳥Ⅱ」▶

船尾部分もデッキ6から12までが階段で行き来出来るデザインになっているので、水平線に沈む夕日と航跡を様々な位置から眺められるのも、この船ならではの魅力です。

日本船でのクルーズは、価格面ではどうしても高価な「ラグジュアリークラス」の値段になってしまっていますが、乗船してみる価値はあると思います。

なお、初代「飛鳥」はドイツのクルーズ会社フェニックス・ライゼンに売却され、「アマデア」として現在もクルーズ船として活躍しています。船内には「飛鳥」の船名プレートが残っています。

※ このシリーズは「それぞれのクルーズ船の特徴」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載2回目です。山口博史（やまぐちひろふみ）昭和43年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。2012年より昨年までクルーズ番組を撮影。取材では主にアジア・ヨーロッパなどでクルーズ船に乗船した。

シリーズ「徳川家康と清水港」②(全4回)

2. 御浜御殿・貝島御殿の建設

慶長12年(1607)三ツ山に関船蔵を設置すると同時に、三ツ山から北西約1.5kmの地点に御浜御殿(清水御殿)を建設した。家康の子息で駿府城主頼宣の命により、家康の別邸として建てた建物である。御殿は下清水八幡神社の東、現在の聖母保育園やカトリック清水教会の建つ敷地付近に位置する。保育園や教会の石垣の一部は当時のもので、御殿の面影を残している。八幡神社の境内には、嘉永7年(1854)地元の有志が建立した「烈祖殿址の碑」(市指定文化財)が移されている。この碑文には往時の御殿を偲ぶ文言が刻まれている。御殿は「殿上間、松の間、柳の間」など見事な部屋があり、素晴らしい景観だったという。建物が完成した慶長15年(1610)、家康はここを訪れ、船で清見潟を遊覧したと伝えられている。

貝島御殿は三保半島から内海に突き出た貝島崎に同年頼宣により建てられた。御浜御殿とは一対をなしている。富士の眺望を楽しむための富士見櫓も設けられていた。

両御殿は家康の保養のために建てられたといわれているが、実は清水湊を監視する役割を担っていたともいわれている。

なお、家康が他界すると御殿は取り壊され、建物の一部は家康の側室お万の方(頼宣、頼房の生母)が再建した沓谷の蓮永寺本堂として移築されたが、安永3年(1774)に焼失した。

3. 三つ石、八つ石

慶長12年(1607)の駿府城の築城は天下普請であったので、石垣の石材は西日本の大名から献上されたものもあった。海上を清水湊まで運搬し、川舟に積みかえて巴川の水路で上土まで運ばれた。その際川に落とした石もあり「落城」につながるとして、そのまま利用されなかった。その後、再利用され、今も記念碑的に残っている石も現存している。

三つ石は柳橋付近で落とされた3個の巨石で、干潮の時は川面に顔を出していたという。

明治27年(1894)巴川製紙工場が川岸に建設された際、この石が引き上げられ、会社正門の門柱として利用され今も生かされている。

八つ石はJR巴川鉄橋付近で落水した石で、現在、入江慈雲寺本堂裏手の庭石となっている。

4. 駿府城本丸から清水湊に通ずる水路

平成4年(1992)駿府公園再整備に伴う発掘調査で、本丸堀から二の丸堀を結ぶ水路が検出された。堀のように両側が石垣積みされ、底にも石敷された堅固な構造であった。

この水路は三の丸堀に通じ、水落から横内川に流れ、上土で巴川に合流していた。

本丸から小舟に乗り、清水湊まで移動することが可能であった。事実、家康はこの水路で清水湊まで下ったことがあり、この時巴川沿岸の改修を命じたといわれている。



《御浜御殿の石垣(聖母保育園内)》



《烈祖殿址の碑(下清水八幡神社境内)》

※ このシリーズは「徳川家康と清水港」について杉山氏の寄稿によるもので、今回は連載2回目です。

杉山 満(すぎやま みつる)昭和11年、静岡県清水区生まれ。日本考古学協会員。清水郷土史研究会顧問。

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間: 9時30分~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く)

★携帯電話・PHSからもご利用できます★

・海やみなとの利用に関すること
 ・総合的な学習時間に関すること
 ・みなとの構想や計画に関すること
 ・海洋土木技術に関すること
 ・みなとの防災に関すること
 その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

堀池・西村 Tel. 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp